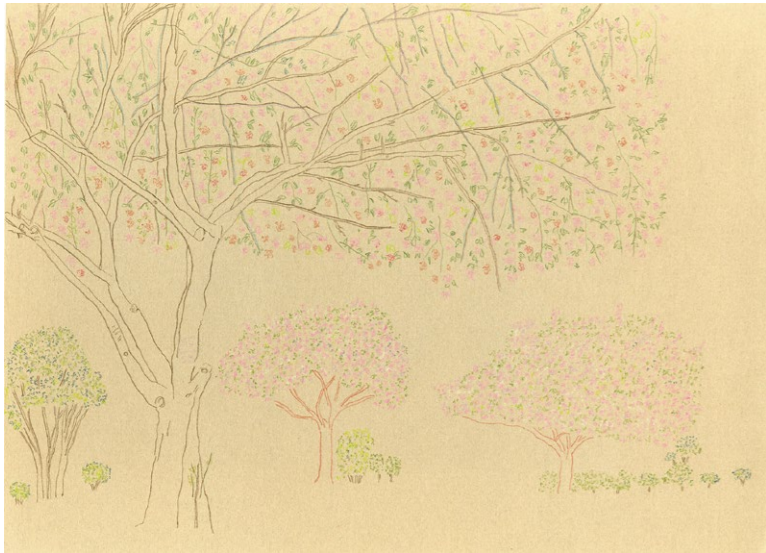


拝啓、そちらの館長さま

iichiko 総合文化センターの中山館長と大分県立美術館の新見館長による往復書簡

今回は、新見館長 ー 中山館長



絵・新見 隆

無沙汰いたしております。国民文化祭を前に、県の皆さんの期待は高まるばかりと思っておりますが、僕らも準備にたいへん、バタバタ忙しております。

今回の、勅使川原三郎さん演出「魔笛」も是非見たいですねえ。東京新国立劇場での、中村恩恵さん振り付けで首藤康之さん (OPAM オープン時に出演いただいた、大分出身の人気バレエダンサー) も出た新作ダンス「ベートーヴェン・ソナタ」も見落としてしまい。2月頭の平和市民公園能楽堂での公演も見られなかったのが、どうしてもこの12日の、大分出身の能役者青木涼子さんの、前衛音楽とのコラボレーションには、横浜ですが行くつもりです。大分の才能は、豊富ですね。

「魔笛」は宮本亜門さんの斬新なプロジェクション・マッピングによる、現代と過去が、九十度に迫り出した舞台上「時空の入れ子」構造になっている見事な演出で堪能しましたが、二期会は実に、さらなる挑戦をおやりになるのですね、感

嘆します。

一昨年に、パリ・オペラ座で見た「魔笛」も、舞台を緑の地上と、暗黒の地下に「上下」に分けた演出で、正面にカナダの四季を映像でゆっくり映し出し、息をのみました。「魔笛」はフリーメイソンの人類愛が勝った、ややお伽話的要素が強いので、常に新しい解釈を逆に誘発する名作だと、感じりました。

美術館は春から、美食の大人にして、書、篆刻から陶芸まで、幅広い仕事をした「美の巨人」北大路魯山人展で大きく勝負に出ます。秋は、日米で活躍、世界を旅し、舞台の装飾やインテリア、陶器の彫刻、岐阜提灯をデザインした《あかり》、そして晩年の前人未到の石の抽象彫刻、そしてランドスケープや庭のプロジェクトに広がった、20世紀最大の彫刻家イサム・ノグチをやります。友人でもあり、共に共鳴したこの二人の個展を今年行うのは、国民文化祭の前哨戦でもあります。大分に、真に深い「伝統と革新の出会い」の風を吹かせたいからです。

2017年3月10日 新見 隆

EDITOR'S NOTE

iichiko 総合文化センターでは、びび特典を受けられるクラシック、歌舞伎などの公演のほか、各種ワークショップにも力を入れています。なかでも募集開始と同時に定員に達してしまうくらい人気の「ミュージカル体験ワークショップ」。それがこの3月、初めてステージショーへ進化しました。出演者は一般の小学生から70代までの約80名。プロを目指す人や趣味で楽しむ人など動機はさまざまですが、練習を見ていて思うのはみんな「好き!」という気持ちが溢れ出ているということ。表現することは嬉しくも厳しくもありますが、その先に感動が待っていることを参加者の方々が教えてくれます。3/26(日)は8回目を迎えるジュニアオーケストラの演奏会。こちらはもう貴様?!のハーモニーを聴かせてくれます。ときにはこんなアットホームなコンサートもぜひご覧くださいね。

COLUMN

びびびの美

日本古来の美しい季節の習慣・室礼をご紹介します

テーマ 菖蒲湯



ひなまつりと同様に多くの習慣が伝わっている5月5日の端午の節句。もともとは中国から伝来したもので、季節の変わり目にあたるこの時期、邪気を払い無病息災を願うために菖蒲やよもぎを軒に吊るしたり、菖蒲湯に入ったりしたそうです。さかのぼること奈良時代からの風習とか。「菖蒲」が「勝負」「尚武」に転じて立身出世を願う男の子の節句となったのは江戸時代からのことで、鯉のぼりも、徳川幕府が男児誕生の際に幟を立てて祝ったことが由縁。これがのちに庶民の間にも広がりました。

雅な紫色の花を咲かせる菖蒲は鑑賞するのも楽しみですが、その茎の部分に血行を促す成分が含まれているため、お風呂に浸れば体が温まりリラックスできそうです。菖蒲湯用の葉は、端午の節句が近づくと花屋さんで見かけるようになります。

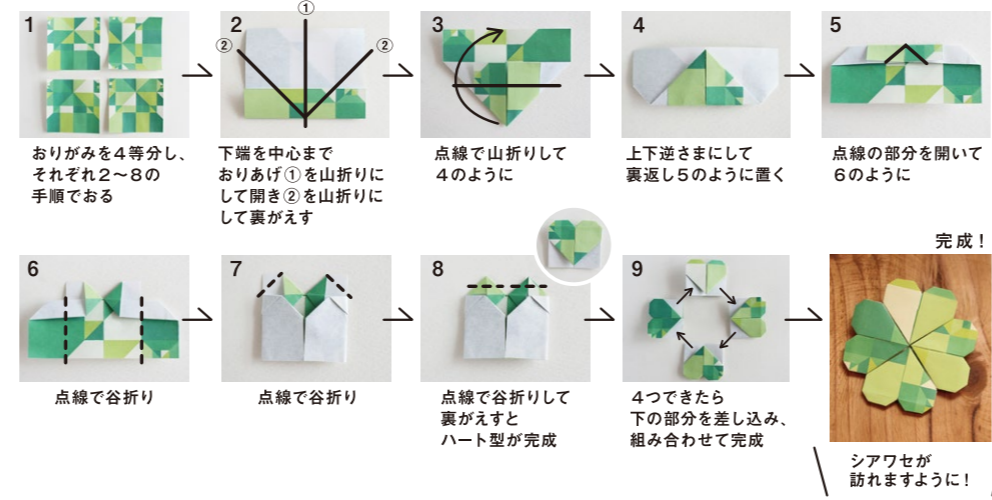
WORK SHOP

びびPAPERの表紙でつくってみましょう

お題「よつばのクローバー」

◎ 折る前にすること ① 隅々まで熟読 ② 切り取りたくない人はコピーをとる

— 山折り --- 谷折り



大分県芸術文化友の会ニューズレター びびPAPER VOL.14 2017 APRIL
(公財)大分県芸術文化スポーツ振興財団
〒870-0029 大分市高砂町2-33 TEL.097-533-4025 FAX.097-533-4050
<http://www.opam.jp/bivi>

大分県芸術文化友の会
ニューズレター

VOL. 14

2017 APRIL



PAPER

